

# 静岡大学 理学部 同窓会会報

NO.9

発行所 静岡大学理学部同窓会  
静岡市大谷 836  
静岡大学理学部内  
Tel 054-237-1111(代)  
会長 赤池大樹

## 『伊豆自然観察施設』 建設に協力を

同窓会副会長

平松晴二



会員の皆様、あけまして

おめでとございます。同窓会設立当時から何かの形で運営に参加させていたいただきながらほとんど仕事をしないうちに、同窓会誌への寄稿の依頼ではたとえ書こうかと考えているときに研修施設建設の件を思い出しました。現在、静岡大学では『伊豆

## 最近の話題

静岡県立横須賀高等学校教諭

山崎保寿



高校教育界における最近の話題は、学校五日制や新学習指導要領に関するものなどが多いが、ここでは、平成六年度から実施される新学習指導要領に関連して、私が三県一〇八校を対象として実施した選択制の拡大に関する調査研究の結果に

ついて簡単に述べることにしたい。  
まず、学校には選択制の拡大を促進する要因と阻害する要因とがあるが、前者には、今回の学習指導要領の改訂や中央教育審議会答申のような学校外部からの要請のほかに、学校内部の要望として、生徒の要望への配慮や特色ある教育課程を実施するためという要因がある。  
一方、後者には、教員定数の制限や施設・設備の限界といった物理的条件のほかに、学校経営的な問題と

二の授精を観察、顕微鏡下でおこる授精膜の形成や卵割を見て感動し、徹夜で観察を続けた思い出、ウミウシ、クラゲ、ヒトデなど知識としては知っていたものを実際に自分の目でみることでできて本当に嬉しかったことを記憶しています。寸又峡での採集後のキャンブファイアーでは一般客まで巻き込んで踊り続けた『ジュシカ』を思い出します。大学ではいつもしかめっ面をしていた学生や先生が童心にかえってはいやいだこと、意外な人間がリーダーとして活躍したことなど鮮明に残っています。私は、現在、高校の教員をしています。現代の生徒たちに一番欠けていることは『感動する心』を、さらに、『仲間を思う気持ち』を持っていないのではないかと思っています。大学について先生たちと話を

をしていられる中にも現代の学生たちはサラリーマンのようだという話が出てきます。私たちの頃は懐かしむつもりはありませんが、夜遅くまで語り続けた体験はいま考えると大変貴重なものだったと思っています。このような意味合いからも施設建設にぜひ御協力を御願いたしたいと思います。何か宣伝のような文章になってしまいましたが、私の大学時代を振り返ってみました。気軽にこんな思い出を語り合える場を提供できるような今後も緊張せずに同窓会活動を通じていきたいと思っています。

生物学科第一回卒業

南の窓越しに駿河湾を見下し、北の窓越しに富士山を眺め得る、ここ理学部A棟六階と五階にある生物学教室は、四つの講座(形態学、生理学、生理化学および細胞生物学)から成り立っています。これらを構成している研究室での研究内容を、二回に分けて紹介する

予定です。当教室も新しい時代を迎え、刷新したスタッフのもと、研究そして教育を意欲的に進めております。今回は、生理化学および細胞生物学講座に所属する研究室を取り上げます。

生理化学

石井勝利

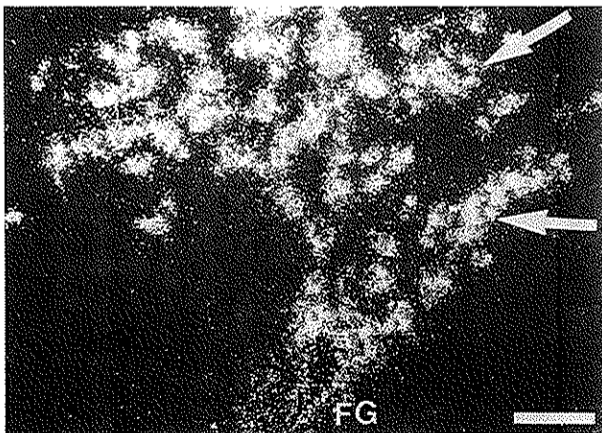
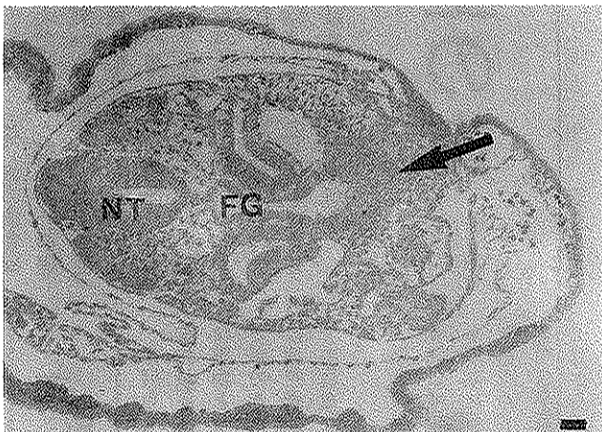
研究室・両生類カエル

の卵成熟の制御機構に関する研究を行っています。プロゲステロンの働きをうけた卵母細胞内にみられる卵核胞の崩壊・染色

## 最近の生物学教室の研究状況(その1)

石川勝利

膜輸送に伴うエネルギー転換機構をウサギ骨格筋小胞体及び高等植物細胞膜を用いて生化学的に解析している。また、最近細胞質に存在する機能不明の転換酵素の精製と解析も行っている。  
山内清志  
研究室・遺伝子の発現と制御機構を解明するための研究を行っている。カエルなどを材料にして甲状腺ホルモン受容体やソウリムシから得たヘモグロビン蛋白質の機能及びそれらの蛋白質をコードする遺伝子の発現制御を、遺伝子工学や蛋白質工学的手法を用いて解析している。  
伊藤道夫研究室・被子植物の花形成過程の細胞を材料にして、減数分裂時の染色体の挙動・生殖細胞への分化・花粉の機能発現の解析を進めるとともに、育種の基礎となる問題の解決も手掛けている。  
野口基子研究室・マウスの生殖細胞の分化・腫瘍化(テラトーマ)・欠損の機構の解明をめざし、関連する初期発生・単為発生・着床・生殖巣形成も含め、系統育成・キメラマウス・再構成生殖巣・細胞培養・遺伝子マッピング等の多方面から解析を進めている。  
塩尻信義研究室・マウス、ラットやニワトリ胚を材料にし、肝臓誘導、小腸の前線毛隆起形成、フアブリキウス嚢の発生における組織間相互作用について組織・細胞から分子レベルでの解析を行っている。  
平成五年一月十五日記 (写真参照)



わたしたちの重要な代謝臓器：肝臓の形成の初期像。  
【上段】妊娠10.5日目のラット胎児の横断面。前腸(FG)より肝臓の芽が形成されはじめる(矢印)。NT：神経管。明視野。

【下段】木の根元(前腸)から、たくさんの幹、枝葉が伸長するように肝臓は発生する(矢印)。癌胎児性抗原AFPのmRNAの分布をインサイチュハイブリダイゼーション法によりみた。暗視野。バーは50μm。

肝臓原基は心臓中胚葉による誘導の結果、形成される。

静岡環境放射線

監視センター

石渡達也



静岡県の出先機関の一つで、衛生研究所の一部門であつた放射能部門が独立して昭和五十六年十二月に小笠原郡浜岡町に設立されたもので、職員数も九人と大変小さな職場である。

名称から推測がつかないとはいませんが、ここでは環境放射線測定と放射能の分布測定をしている。その目的は二つあり、一つ目は中部電力浜岡原子力発電所の周辺モニタリングで発電所からの周辺環境への影響を調査すること、二つ目は過去に行われた核実験等の影響を調査する全国ネットワークの一環としての調査である。

静岡大学四年間と今について

も当時はいまひとつ楽しんでいなかったように思いますが、こう書くとうまく見えてきません。受けての側として物理は本業、趣味は趣味と、物理に対して肩力が入りすぎて楽しむ事をセーブして来たように思えます。今はミスター気分です素人物理屋

同窓生の声

として物理に接していませんので、楽しむ事に徹していただきます。そうすると大学時代の授業の思い出がいろいろとあふれてきます。「これも大事。あれも大事。」とあれこれ思い出しては、故郷は遠くに在りて思うもの、大学を遠くで思いながら、いろいろな先生、友人の有難さを感じています。同時に自炊でもするように自分の好みの味の物理をしたりしています。

一九九三年も、景気高揚が国策になつてきているが、さうとうとうオゾン層破壊によって人類の焼死で終結を迎えることを私は恐れる。景気消費公害とどう断ち切るかが問題だ。一人一人が真剣に考えるときだと思ふ。

幾多の思い出の中でも、教養部C棟耐震工事は今でも鮮明に覚えている。工事を覚悟の上で江川先生の門を叩き卒業研究を始めたが、七月から十月の間はすべての物を教養部C棟に移動して工事が終わるのを待った。塗料臭い建物の中で実験を再開したのは十月中旬。生物・地学・科学史共同研究室の家族的な雰囲気は、焦り始めた私の心を落ち着かせてくれる場所でもあった。卒業研究発表の朝は、静岡では珍しく十センチ程の積

雪があり、教養部C棟前の桜の蕾も寒さに震えていた。新幹線で静岡を通過する時、日本平方面に緑に囲まれた静岡を見るのとホッと心がなごむ。構内から望んだ富士山の優姿と駿河湾の美しさはいつまでも変わらないうでいて欲しい、と心の中でつぶやきながら。

士公害のこと。紙の消費増大で乱立する製紙会社の煙突からの煙で富士周辺の住民は喘息で苦しんだ。好景気の裏には犠牲が伴うものか。景気と公害は同伴するものなのかも知れない。これをどう解決していくべきか。今後の重大な国家的又は世界的課題だと思ふ。

生物学科 荻野正雄  
すばらしい自然環境に恵まれ野外実習を通して様々な生物と身近に接触することができた事は、生物学科に席を置いた私にとって今でも貴重な経験となつてい

雪があり、教養部C棟前の桜の蕾も寒さに震えていた。新幹線で静岡を通過する時、日本平方面に緑に囲まれた静岡を見るのとホッと心がなごむ。構内から望んだ富士山の優姿と駿河湾の美しさはいつまでも変わらないうでいて欲しい、と心の中でつぶやきながら。

事務局長より  
物理学科 野口和広  
役員は、年三、四回、七間町のフランチで理事会を開催し、意見交換をしています。

退官予定の先生方  
理学部長 和田清美氏  
生物学科教授 杉山秀夫氏  
事務部長 杉山秀夫氏  
平成五年三月で退官される予定です。長い間お世話になりました。今後ともよろしく願います。

この様に得られた測定結果は、発電所から放出された放射性物質の有無の監視だけでなく、環境中の放射性物質濃度の変動の把握や人間への被曝線量の評価に役立っている。

最後に知らない人が多いと思うので浜岡町について書きます。浜岡町は御前崎の西に位置する。町内には映画「砂の女」のロケ地となつた浜岡砂丘、ゴルフ場の浜岡カントリークラブや宮城マリ子氏の主催するねむの木学園等がある。産業としては発電所を別にするとイチゴ、メロンの温室栽培がさかんである。またこの浜岡町は、戦前日本のプリマドンナだつた三浦環の出身地でもある。

世直し考  
化学科 上田 泉  
金があれば何でもできる時代、高級な車が欲しい、ハイグレードな服が着たい、美味しいものが食べたい、欲望にはきりが無い。エスカレーターはエスカレーターのように急昇する。これでいいのだろうか？反省が心をよぎる時、ふと新聞を見ると日本の消費が低迷している。国民により以上の消費を追っている。いったいどうしてなんだ。何が何だか判らなくなつてくる。

無題  
物理学科 松谷茂樹  
大学を卒業して七年、そのままだに残つたので静大を離れて五年。学部時代は少しもまじめでなくサボッてばかりいた物理も離れて初めてその面白さに気付いている日々です。そもそも物理をやりたいで入つた大学だつたので本当は物理が好きだつたのですが、どう

同窓会の会報も、今回で九号になりました。編集には、副会長の竹下君と理事の佐伯君が、第一号からずっと当たってくれています。同窓会の方々、大学の恩師の先生方には、毎回、原稿の執筆を快く引き受けていただきありがとうございます。

十一月には、伊豆自然環境研修施設「建設について協力要請をいたしました。御協力願えたでしょうか。同窓会名簿は、同窓会設立以来三回発行しました。平成三年版は少し字が小さくて見にくかつたでしょうか。卒業しているのに、どこにも名前がない人があつたりして、申し訳なく思っています。

平成3年度静岡大学理学部同窓会会計報告 (～H.4.3.31)

収入の部		
前年度よりの繰越	365,308	
年会費・寄付(439件)	770,400	
入会金(30件)	60,000	
名簿代(30+219件)	511,800	
特別寄付(25件)	60,000	
受取り利息	1,532	
計	1,769,040	
支出の部		
印刷費	206,190	
通信費	340,166	
会議費・事務用品費等	119,390	
総会費	209,322	
名簿印刷代金	700,400	
計	1,575,468	
差引残高	193,572	

以上報告致します。平成4年3月31日  
会計担当理事 安久純 浅野本子  
監査の結果、報告の通り相違ありません。 監査 洋初男 佐松山

最後にお願いを二つ、住所未確認同窓会員の住所をご存じでしたら、お知らせ下さい。